

墨俣婦人会との交流会

生活デザイン科3年ファッションコース

令和6年10月22日（火）に、生活デザイン科3年生ファッションコースの生徒と、墨俣婦人会（22名）の方とで裂き織でコースター製作の交流会を行いました。使わなくなった布地を細かく裂いて、円状にたて糸とよこ糸を上下に通して好みの大きさまで織りました。また、手作りの良さについてのご意見を伺いながら交流を深めることができました。



裂き織とは

- 江戸時代中期に機織りの技法から生まれた織物
- 使わなくなった服や思い出の洋服を細かく裂いてテープ状にして使う
- 布の再利用 → 新しいものを生み出す

裂き織の魅力

- 織る人の手加減で大きさかわるので、「個性」ができる。
- 「もったいない精神」「資源を大切に使う知恵」
- 自分の手の届く範囲で布を循環させることができる。



布の命を使い切る



【製作の様子】



細かい作業で目
がつかれそう

自分の好みの配色に
できるから楽しい！



【製作の作品】

学んだこと 感想

- 手づくりの良さは、作品に思いがこめられて愛着がもてる。
- 使用する度に、作った時の思い出がよみがえる。
- 手間暇かけて作り、丈夫でオリジナルの作品ができた。
- 最初の役目を終えてからさらに新たな布に生まれ変わるので、大事に使えば物の命が長くなる。
- 家でも作りたいとのことで、織り台（段ボール板）を持ち帰られ裂き織の良さが伝わった。